



ニュースリリース

2019年8月6日

BASF、下水排水処理施設や過酷な化学環境設備に革新的な防食被覆工法を新発売

- » マスターシール[®] 7000 CR システムは Xolutec[®] (ゾルテック) テクノロジーによる独自の特性を提供
- » 非常に厳しい腐食環境でコンクリートを完全に保護
- » コンクリート構造物を延命し、ライフサイクルコストの低減に寄与

BASF ジャパン株式会社(本社:東京都中央区、社長:石田博基)は、「MASTER BUILDERS ポゾリス[®]」ブランドより、タンクや下水管などを含む過酷な排水インフラ環境の課題に対処する独自の特性を備えた防水・コンクリート防食被覆工法「マスターシール[®] 7000 CR」を新たに発売しました。

下水中における嫌気的な環境では硫酸塩還元細菌により、硫化水素が生成されます。気相中に拡散した硫化水素は、硫黄酸化細菌により硫酸を生成し、コンクリート躯体の構造的損傷を引き起こす原因となります。マスターシール[®] 7000 CR は、優れた耐薬品性とひび割れ追従性を兼ね備え、廃水や酸からコンクリートや鉄筋を保護するだけでなく、構造物のライフサイクルを延命します。

マスターシール[®] 7000 CR のもう1つの重要な利点は、下地や施工環境の両方における優れた耐湿性です。手塗りまたは吹付けにより簡単に施工でき、湿潤下地面にも使用ができます。さらに、速硬化性により、20°Cで、施工完了後 24 時間程度で解放できることから、工期を短縮し、最小限の設備停止期間で現状を復旧させることが可能です。

「日本におけるインフラの老朽化や技能員の不足の中で、この独自に実証されたシステムは、お客様にとって予期せぬ設備修繕・改修作業や、設備の耐久性向上に貢献します。マスターシール® 7000 CR は、実際の下水管をシュミレーションした条件下で5年相当の促進試験を行いました。その結果、マスターシール® 7000 CR の物性に大きな変化はみられませんでした」とBASF アジア太平洋地域のリージョナル・ビジネス・セグメントの責任者のニロットポル・カーは述べています。マスターシール® 7000 CR は、「MASTER BUILDERS ポゾリス®」ブランドによる耐久性の高い建設に向けた BASF の新技術 Xolutec® を駆使しています。この新技術は、現在のウレタン (PU) やウレタンアクリル (PUA) の製品の先を行く技術として数年をかけて開発されました。Xolutec® は、樹脂構成要素と分子間相互作用を最適化し、強化された架橋ポリマーネットワークを創出します。この技術により、長期間のメンテナンスサイクルを実現し、ライフサイクルコスト低減に貢献する多様なソリューションに向けたユニークな材料特性を持った製品が提供可能になります。

BASF ジャパン建設化学品事業部 執行役員の池田尚浩は次のように述べています。「近年、排水処理施設のインフラ設備において、費用対効果の高い建設、維持・保全、補修工法の需要が拡大しています。この実証されたマスターシール® 7000 CR は、困難な技術環境の課題を抱えるお客様の問題解決に対応できるシステムです。」

マスターシール® 7000 CR はアミン構造を持たないため、超低臭型工法で、また、日本下水道協会防食マニュアルの C 種、D 種に適合した性能を持ち、技能員の作業環境と安全性に寄与しています。

BASF は、8月6日～9日にパシフィコ横浜で開催される「下水道展'19 横浜」にて、マスターシール® 7000 CR を出展いたします。

なお、マスターシール® 7000 CR の詳細については、<https://www.master-builders-pozzolite.basf.co.jp/ja-jp/products/masterseal/masterseal-7000cr> をご覧ください。

■BASFの建設化学品事業部について

BASFの建設化学品事業部門は、構造物の新設、メンテナンス、補修、改修における先進的で化学的なソリューションを提供します。包括的な製品ポートフォリオは、コンクリート混和剤、セメント添加剤、地下建設用ソリューション、防水システム、シーリング剤、コンクリート補修保護システム、高性能グラウト材、高性能床材、固定システム、膨張収縮目地システム、防腐剤などで構成されています。全世界における建設化学品事業部の従業員は約7,000人で、建設分野の専門家により世界規模の技術支援体制でお客様をサポートしています。コンセプト作りからプロジェクト竣工までお客様の課題解決のため、BASFは、専門知識や現地のノウハウを組み合わせ、世界における多数の建設プロジェクトで培った経験を生かします。また、技術だけでなく、現地の建築ニーズの深い知識を活用することで、お客様のさらなる成功をサポートするイノベーションを開発し、持続可能な建設業界を牽引します。建設化学品事業部門は、世界で60カ国以上に製造及び販売拠点を構え、2018年の売上は約25億ユーロです。

■日本のBASFについて

BASFは1888年より日本市場のパートナーとして事業活動を行っています。国内では建設化学品事業部の製造センター16カ所を含む23の生産拠点の他、兵庫県尼崎市、神奈川県横浜市、神奈川県茅ヶ崎市、千葉県山武市に研究開発拠点を設けています。2018年のBASFの日本での売上高は約18億ユーロ(約2,335億円)、従業員数は1,138人です。日本のBASFに関する詳しい情報はwww.basf.com/jpをご覧ください。

■BASFについて

BASF(ビーエーエスエフ)は、ドイツ ルートヴィッヒスハーフェンに本社を置く総合化学会社です。持続可能な将来のために化学でいい関係をつくることを企業目的とし、環境保護と社会的責任の追及、経済的な成功の3つを同時に果たしています。また、全世界で約122,000人の社員を有し、世界中のほぼすべての産業に関わるお客様に貢献できるよう努めています。ポートフォリオは、6つの事業セグメント(ケミカル、マテリアル、インダストリアル・ソリューション、サーフェステクノロジー、ニュートリション&ケア、アグロソリューション)から成ります。2018年のBASFの売上高は約630億ユーロでした。BASF株式はフランクフルト証券取引所(BAS)に上場しているほか、米国預託証券(BASFY)として取引されています。BASFの詳しい情報は、www.basf.comをご覧ください。